

Ⅲ 重点施策への関心・認識

問 14 空き家の増加が社会問題となっていますが、あなたがお住まいの地域では空き家が増えていると感じますか。(〇は1つ)

～「増えていると感じる」が約7割～

空き家が増えていると感じるかについて、「増えていると感じる」は 67.2%、「増えているとは感じない」は 18.1%となっている。

年代別で見ると、「増えていると感じる」は 50 歳以上で高くなっている。

地域別で見ると、「増えているとは感じない」は他の地域と比べて東部で高くなっている

図38 住んでいる地域では空き家が増えていると感じるか(n=1,706)

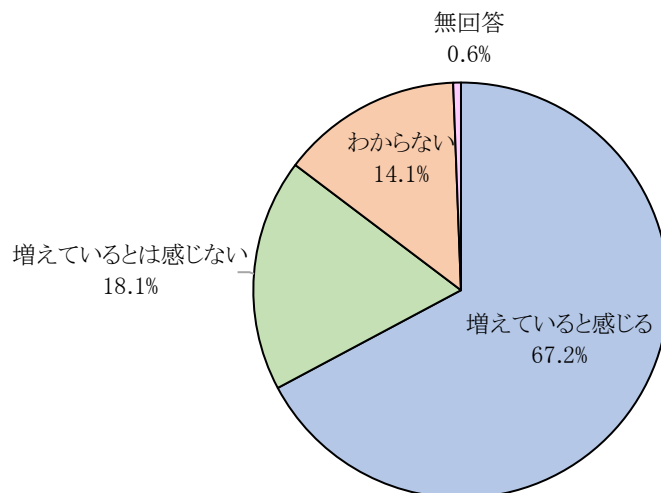
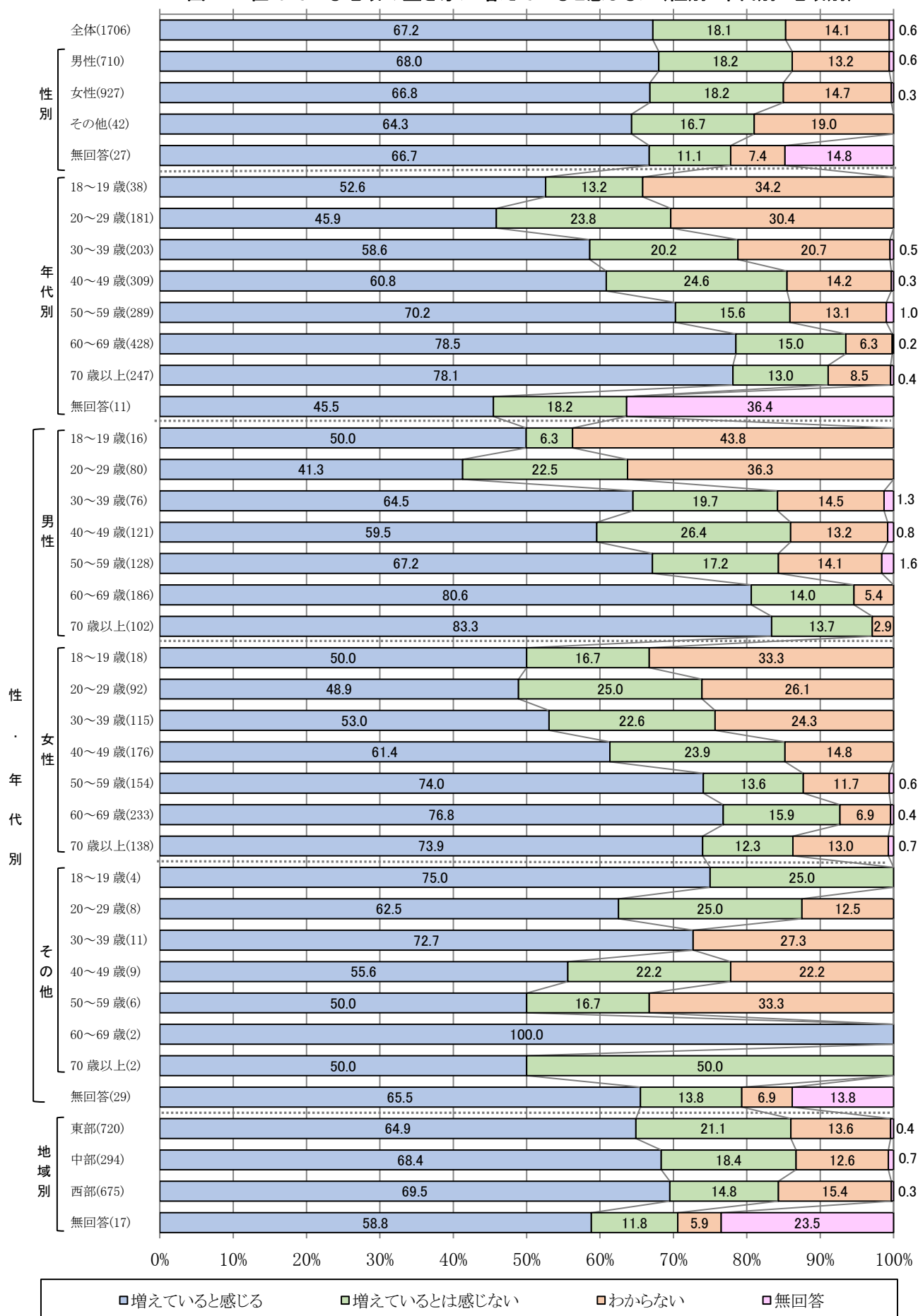


図39 「住んでいる地域の空き家が増えていると感じるか(性別・年代別・地域別)」



問 15 空き家が増加すると何が問題だと思われるか。(〇は3つまで)

～「放置され、周囲に危険を及ぼす老朽化した建物が増えること」が約9割～

空き家が増加すると何が問題だと思われるかについて、「放置され、周囲に危険を及ぼす老朽化した建物が増えること」が 86.7%と最も高く、次いで「衛生環境や治安の悪化など、住環境の不安につながる事」が 73.2%、「雰囲気が悪くなり、人気(ひとけ)のない地域になること」が 46.2%となっている。

年代別でみると、上記の3項目は 50 歳以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「放置され、周囲に危険を及ぼす老朽化した建物が増えること」は女性の 50 歳以上で高く、「衛生環境や治安の悪化など、住環境の不安につながる事」は男性の 70 歳以上、女性の 60 歳代で高く、「雰囲気が悪くなり、人気(ひとけ)のない地域になること」は男性・女性共に 70 歳以上が高くなっている。

図40 空き家が増加すると何が問題だと思うか(n=1,706)

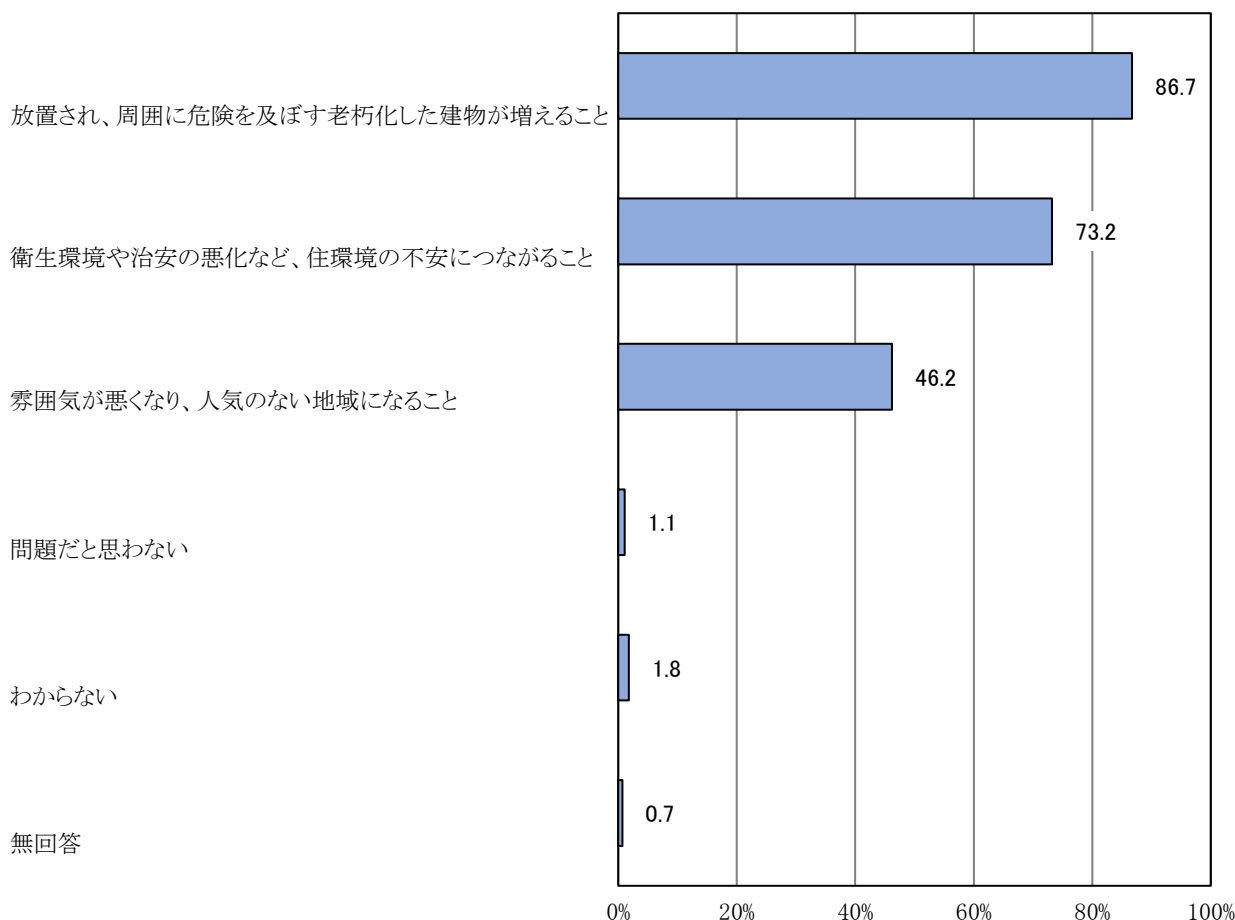
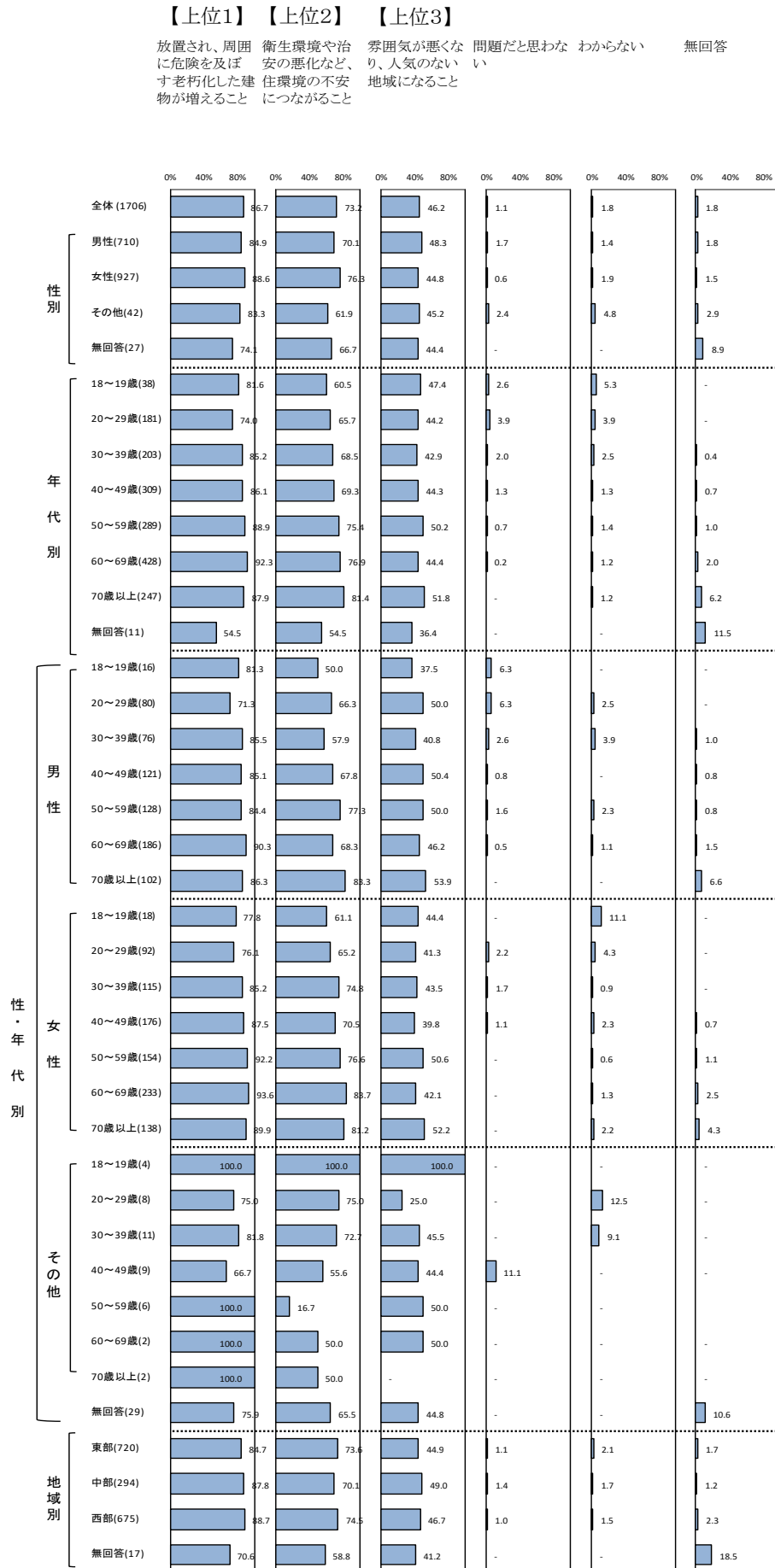


図 41 空き家が増加すると何が問題だと思われますか(性別・年代別・地域別)



問 16 あなたは、将来空き家を所有または管理する可能性がありますか。(〇は2つまで)

～「ある(ご実家や、現在、親や親族などが居住している住宅を相続する場合等)」が約4割～

将来空き家を所有または管理する可能性があるかは、「ない」が 36.5%と最も高く、次いで「ある(ご実家や、現在、親や親族などが居住している住宅を相続する場合等)」が 36.3%、「ある(住み替えによりご自分の住まいが不要になる場合等)」が 10.6%となっている。

年代別でみると、「ない」は 60 歳以上で高く、「ある(ご実家や、現在、親や親族などが居住している住宅を相続する場合等)」は 30～50 歳代で高く、「ある(住み替えによりご自分の住まいが不要になる場合等)」は 50 歳以上で高くなっている。

地域別でみると、ある(ご実家や、現在、親や親族などが居住している住宅を相続する場合等)は、東部地区と西部地区が中部地区より高くなっている。

図42 将来空き家を所有または管理する可能性(n=1,706)

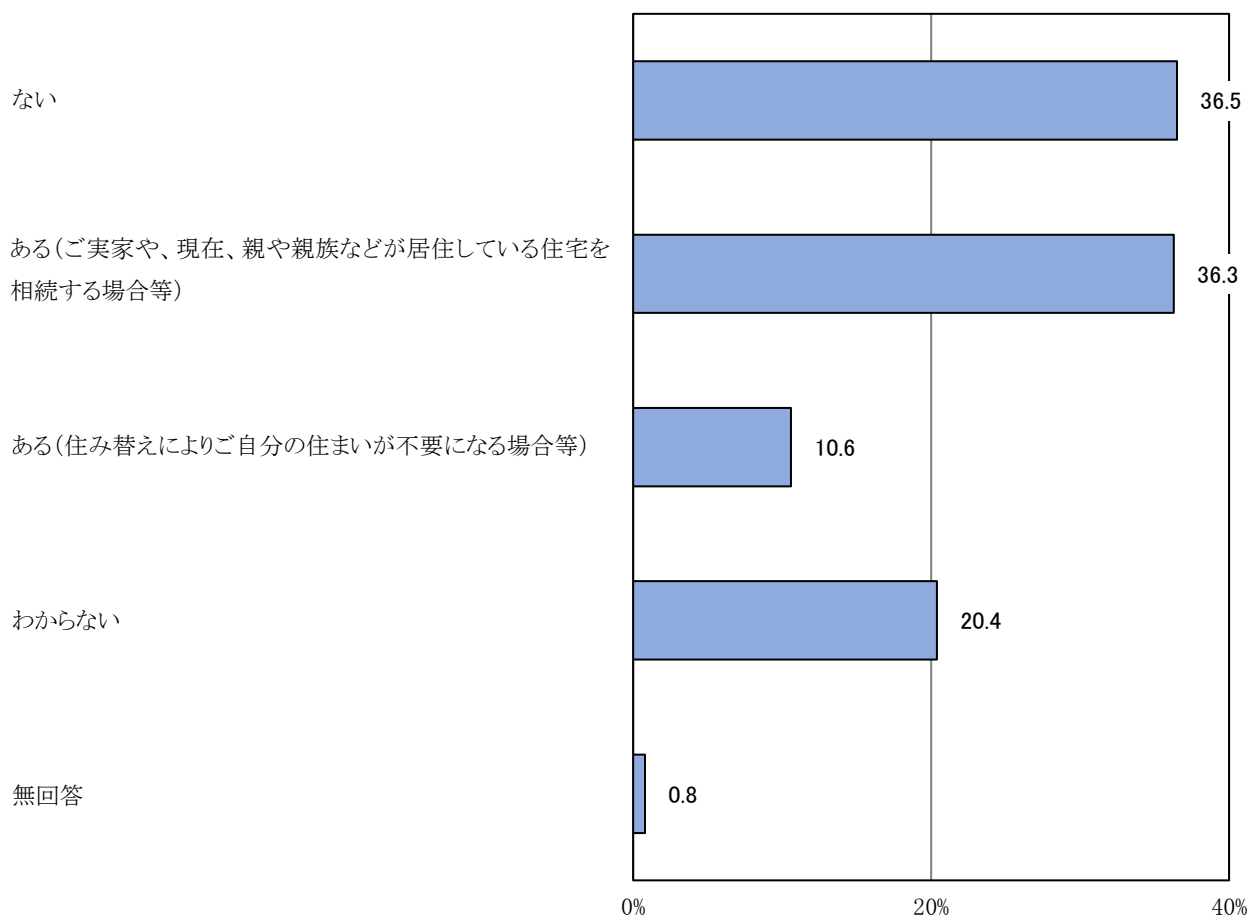
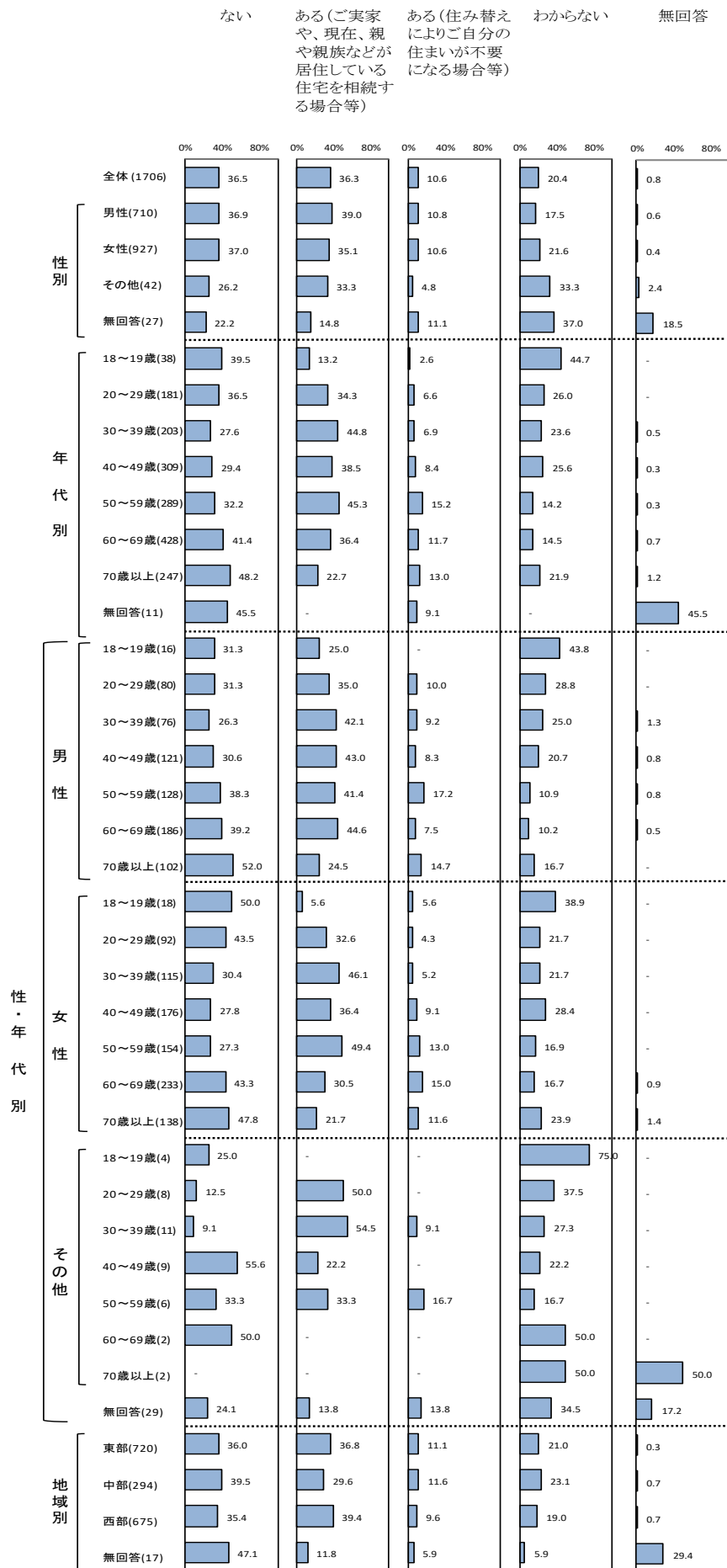


図 43 将来空き家を所有または管理する可能性(性別・年代別・地域別)



問 17 ご自分の住まいやご実家等の将来について、関係者(家族・親族等)で話し合う必要を感じていますか。(〇は1つ)

～「必要性を感じるが、具体的な話し合いの予定はない」が約4割～

ご自分の住まいやご実家等の将来について、関係者(家族・親族等)で話し合う必要を感じているかについて、「必要性を感じるが、具体的な話し合いの予定はない」が38.9%と最も高く、次いで「必要性を感じるため、今後話し合う予定」が22.0%、「必要性を感じ、既に話し合っている」が18.9%、「必要性を感じない」が10.7%となっており、話し合いの必要性を感じる回答が約8割、うち、話し合いについて前向きな回答と、具体的な話し合いの予定はないとの回答が約半数ずつとなっている。

年代別で見ると、「必要性を感じるが、具体的な話し合いの予定はない」は40歳代以下で高く「必要性を感じるため、今後話し合う予定」は50歳代で高くなっている。

性・年代別で見ると、「必要性を感じるため、今後話し合う予定」は男性の40～50歳代で高く、「必要性を感じ、既に話し合っている」は男性は60歳代、女性は30歳代と70歳以上が最も高く、「必要性を感じない」は女性の70歳以上で高くなっている。

図44 自分の住まいや実家等の将来について、関係者(家族・親族等)で話し合う必要を感じているか(n=1,706)

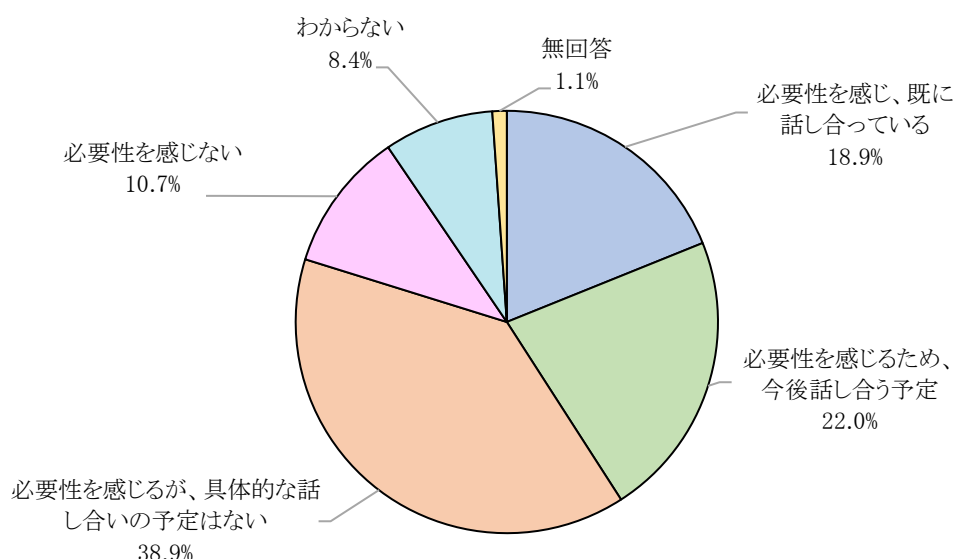
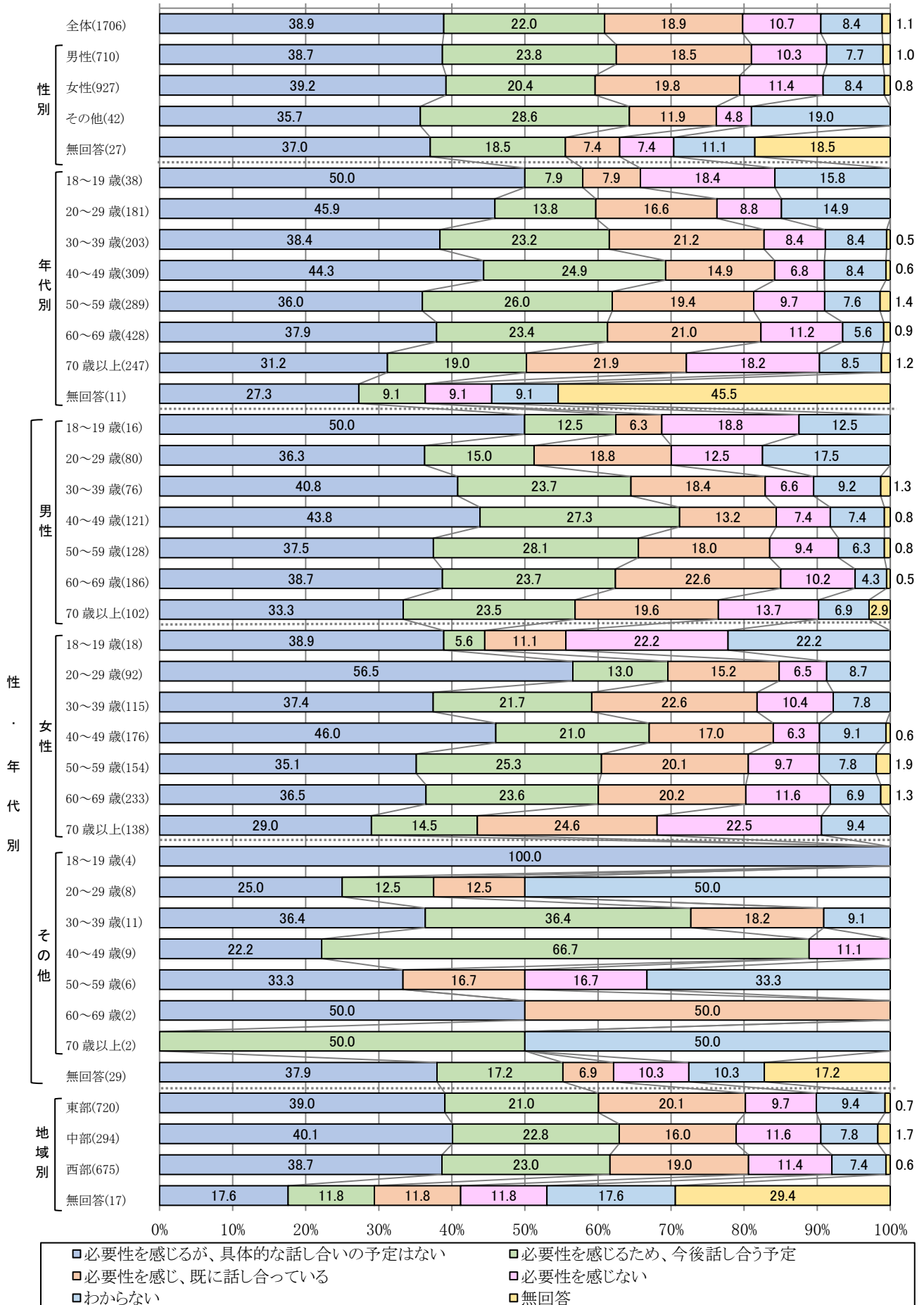


図45 住まいや実家等の将来について関係者で話し合う必要を感じているか



問 18 今後、空き家問題の解決に向けて特に必要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

～「行政による支援の充実」が5割以上～

今後、空き家問題の解決に向けて特に必要だと思うことは何かについて、「行政による支援の充実」が 54.9%と最も高く、次いで「空き家所有者・管理者の意識改革」が 43.1%、「専門家等による相談しやすい体制づくり」が 38.6%となっている。

年代別でみると、「行政による支援の充実」は 30～60 歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「行政による支援の充実」は男性は 20～30 歳代、60 歳以上で高く、女性は 30 歳代、60 歳代で高くなっている。「専門家等による相談しやすい体制づくり」は女性の 50 歳以上で高くなっている。

地域別でみると、「解決に役立つ情報の充実」は東部地区と西部地区が中部地区より高くなっている。

図46 今後、空き家問題の解決に向けて特に必要だと思うこと(n=1,706)

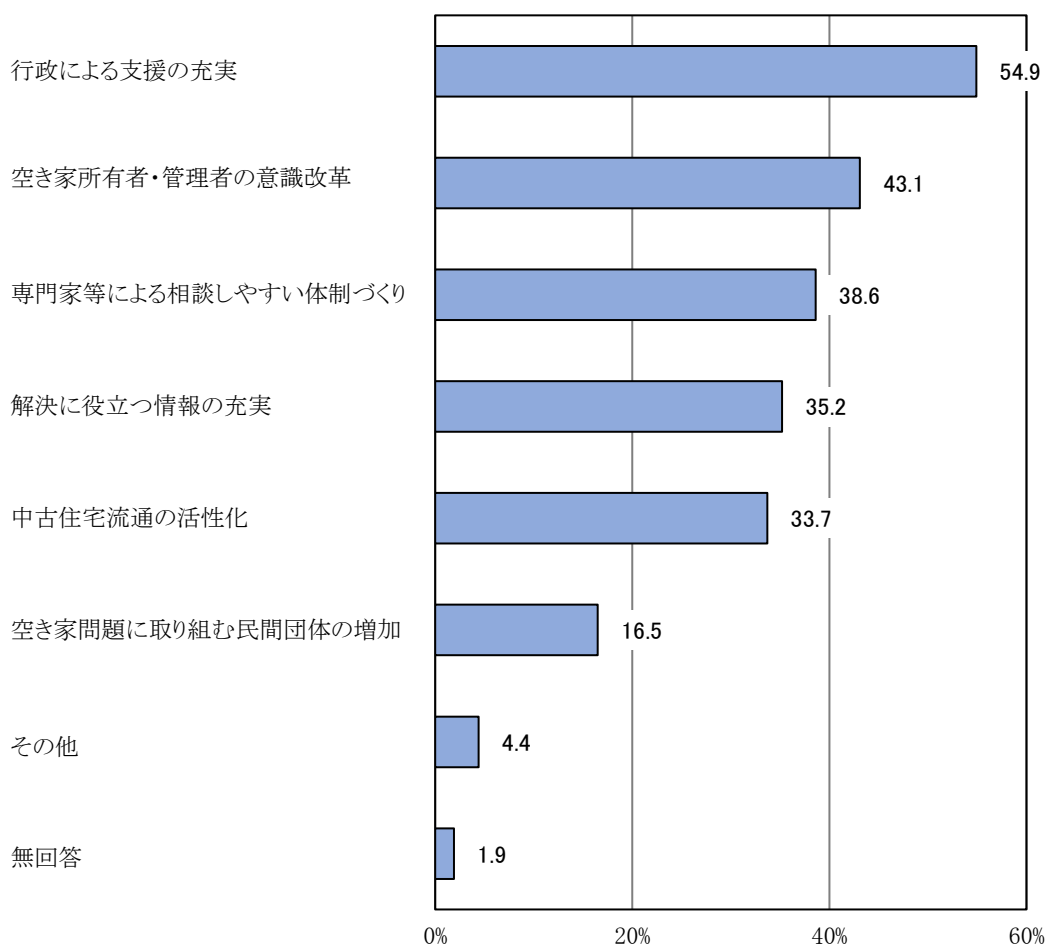


図 47 今後、空き家問題の解決に向けて特に必要だと思うこと(性別・年代別・地域別)

【上位1】 【上位2】 【上位3】

行政による支援の充実 空き家所有者・管理者の意識改革 専門家等による相談しやすい体制づくり 解決に役立つ情報の充実 中古住宅流通の活性化 空き家問題に取り組む民間団体の増加 その他(下記に具体的に書きください) 無回答

